

開催にあたって

この度、埼玉医科大学小児科雨宮と内科粟田が共同で第8回先進インスリン研究会をお世話させていただくことになりました。大学病院内ではまだ小児科と内科に分かれておりますが、ポンプ(CSII)療法をはじめ持続血糖測定(CGM)などの先進インスリン療法の実践を協力して進めさせていただいているところです。日本各地を見回すと、糖尿病の治療における小児科と内科の連携はこれまで十分と言えるものではなかったのではないのでしょうか。小児科と内科の専門家が多数参加される本研究会が、先進インスリン療法実践における小児科・内科連携を推進する場となれば幸いです。そこで今回の研究会では、先進インスリン療法実践における連携の実態と問題点について討議する場を設けることにしました。糖尿病療養指導士などのコメディカルスタッフや患者さんを含めた活発な意見交換が楽しみです。

まず、出揃った各種インスリンアナログ製剤は1型糖尿病のみならず2型糖尿病における患者さんの個々の要求に応じた選択を可能としてきています。まだ日本におけるCSII療方は欧米に比べ立ち遅れた現状にあります。しかし、潜在的活用技術はありますので、厚生労働省がその受け入れに少しでも理解を進めてくれれば、飛躍的に適応が拡がると考えられます。それこそ、赤ちゃんから、多感で活動的な思春期の子ども達、妊娠を控えた女性達、頻回の注射さえなければ厳格な血糖コントロールを望む壮年・熟年の人たちの要求にも応えられる準備はできています。

当然厳格な血糖管理は低血糖があっては意味がありません。同じA1Cでも血糖変動幅が少なければ、細小および大血管障害をより有効に予防できます。食後や思わぬ時間での高血糖・低血糖の発見に役立つCGMの経験も進んでいます。CSIIとの融合も既に現実となりつつありますので、この分野の成果も期待できます。また、革新的な糖尿病治療薬であり、まもなく日本でも市場に登場するGLP-1関連(インクレチン)製剤についての講演も頂きます。基礎的な面では、最近のゲノムワイド関連解析により、1型糖尿病遺伝因子について大きな進展が見られています。そこで、1型糖尿病遺伝因子の現状についての講演も企画いたしました。

大宮は5つの新幹線など13の鉄道路線が利用可能である鉄道の街として知られており、最近オープンした鉄道博物館も賑わいを見せています。多数の演題応募ありがとうございました。実りのある会にさせていただきたく、多数の方々のご参加をお待ちしております。

第8回先進インスリン療法研究会当番世話人



埼玉医科大学
小児科
雨宮 伸



埼玉医科大学
内分泌・糖尿病内科
粟田 卓也